

ル3
432
2

特別
ル3
432
2



海軍川のよう次細布をうけおきの意に

○玉川

むさうれ玉川といつはら木道の
きよめと流るる海軍川のよか

○西乃屯

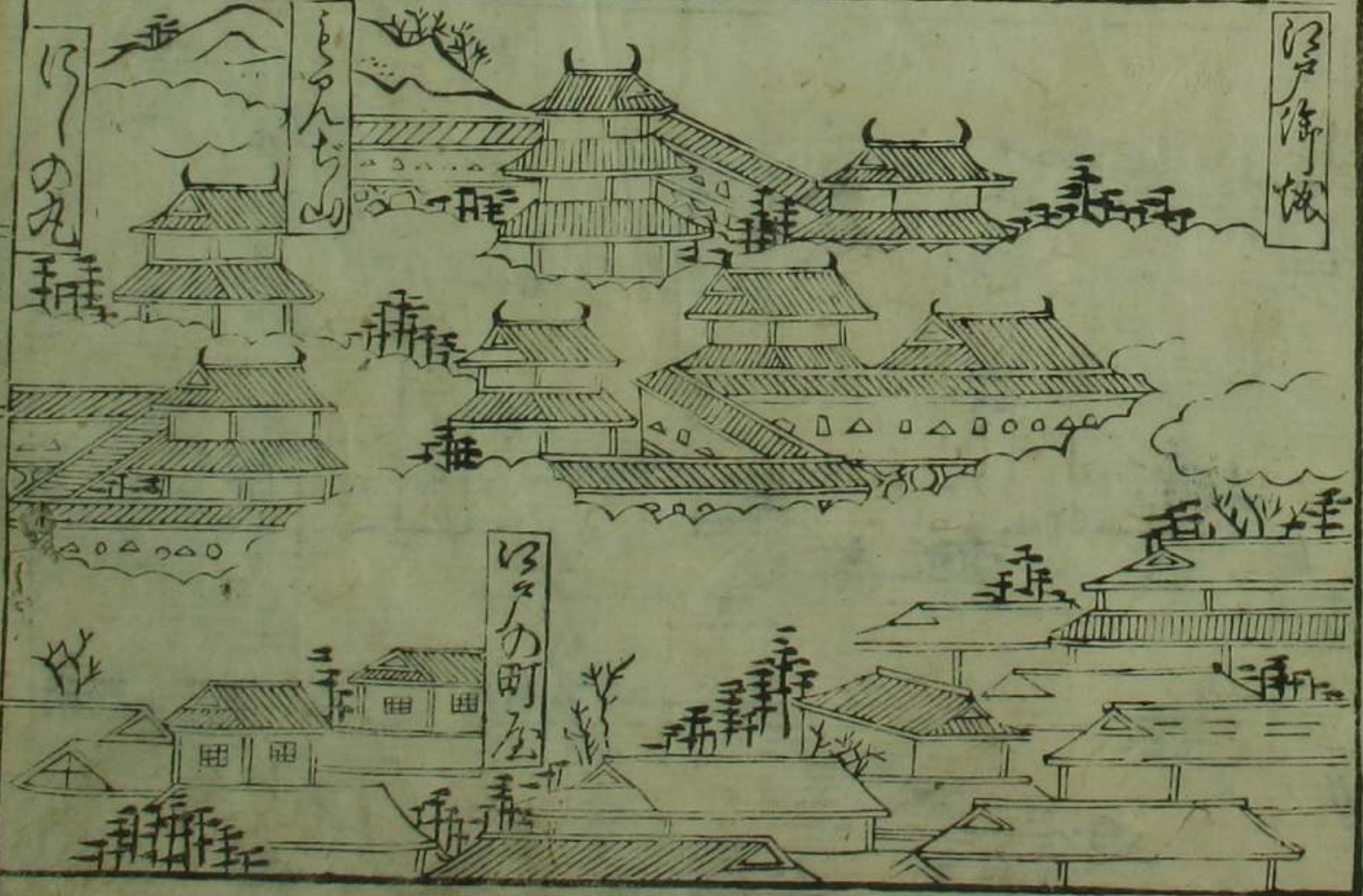
○御本屯

○石山

春の木の影をうけさかきぬ常盤
たし下馬の紅傘をきと袋
時津固

ちりせの松岡村をうけさかきぬ
石山より秋乃をうけさかきぬ
石山より目録めれ丸をうけさかきぬ
結大なる石をうけさかきぬ
月むさうれ野をうけさかきぬ

○江戸



江戸御城

石の丸

石の町

西乃屯

日本橋より西へは海と橋田の事
松平左衛門林殿松平左衛門殿
あなはにありと

○慶長園

春の海は河津の事なりとも

○山王の宮

社領上の首石

○芝雲山

○増上寺

寺領寺名

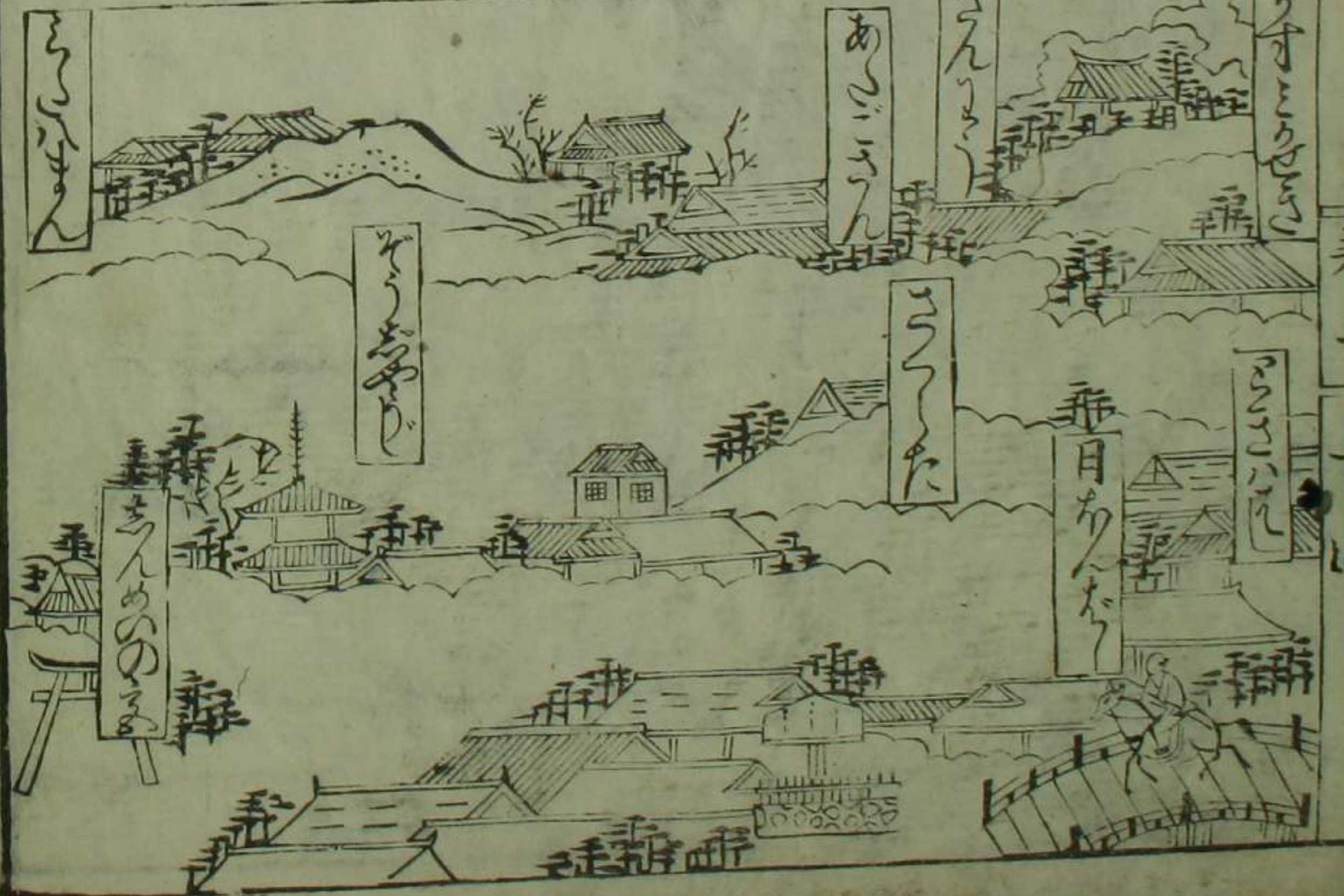
南寺の園巻上人草創三徳山度
慶長とのこと園巻の所承二十四年

七月十八日と祀

○神楽宮

まじりけりのかさよをなわすく
あま志保がごとく西乃久保と云

○三田八幡



金堀りゆふあまをすきて是乃所
らづきこれのけむりし海を
小堀人のけむりしむきとて後物
花よりむくしや平つゝ車宿

○大佛

長久のま像也

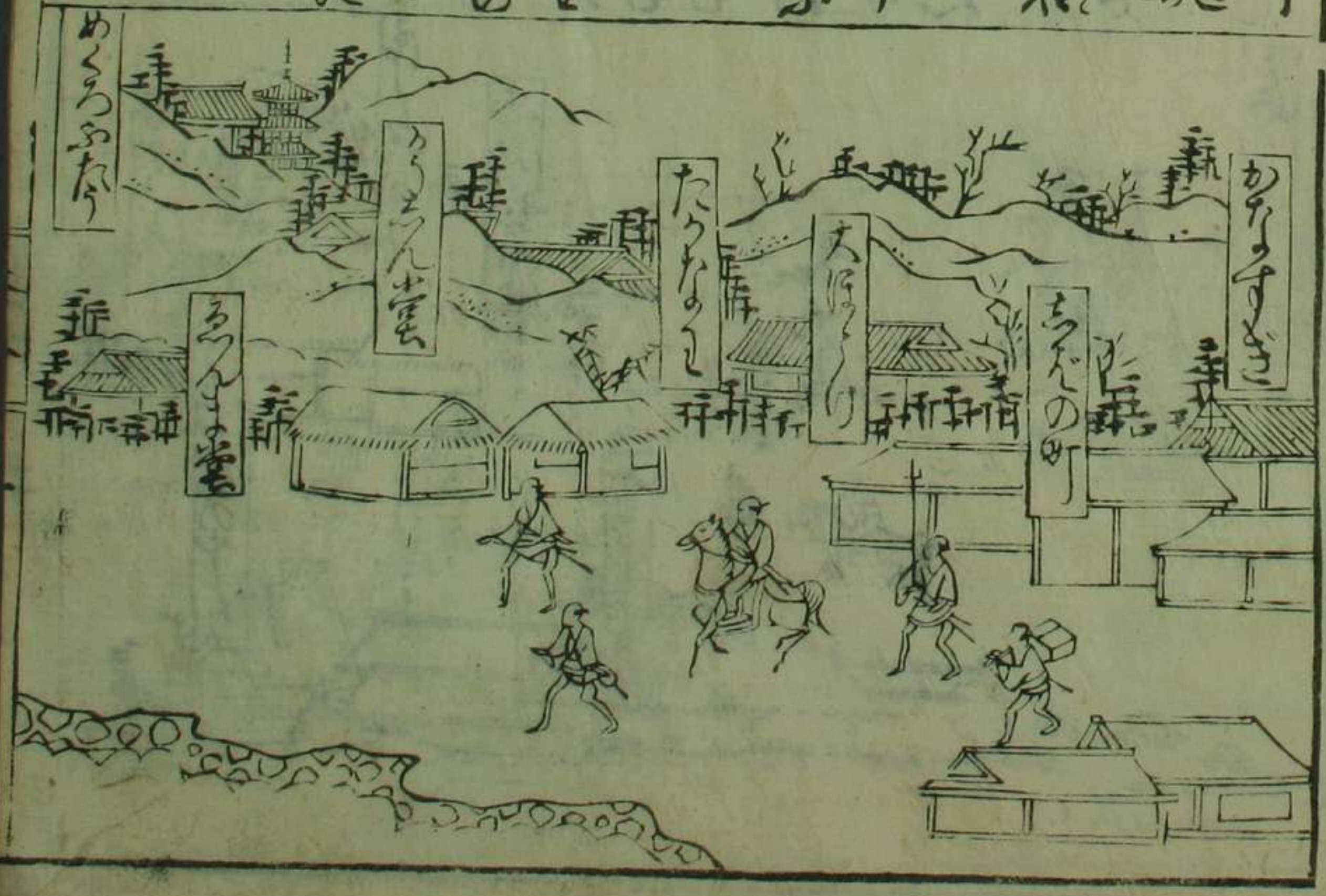
是乃大元の額元乃身子額也
海令山乃本舎沙門のつとてはふ
石像の二門あり

○瑛魔堂

たき子堂庚申堂と云ふ是より
たのかつ海をくく石像つとてはふ
是野をむねまつけりてをまの像に
つとてはふ

○月黒不動

寺領三十八



○東海寺

むらゝ 志願の寺のすまひの寺
なまゝの道化の後の御願の寺
ゆかりの御願の寺

○御茶屋

○妙圓寺

かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺
かき金銀の彫りたるの寺

○不詳

は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺
は浦より名物の苦みたるの寺

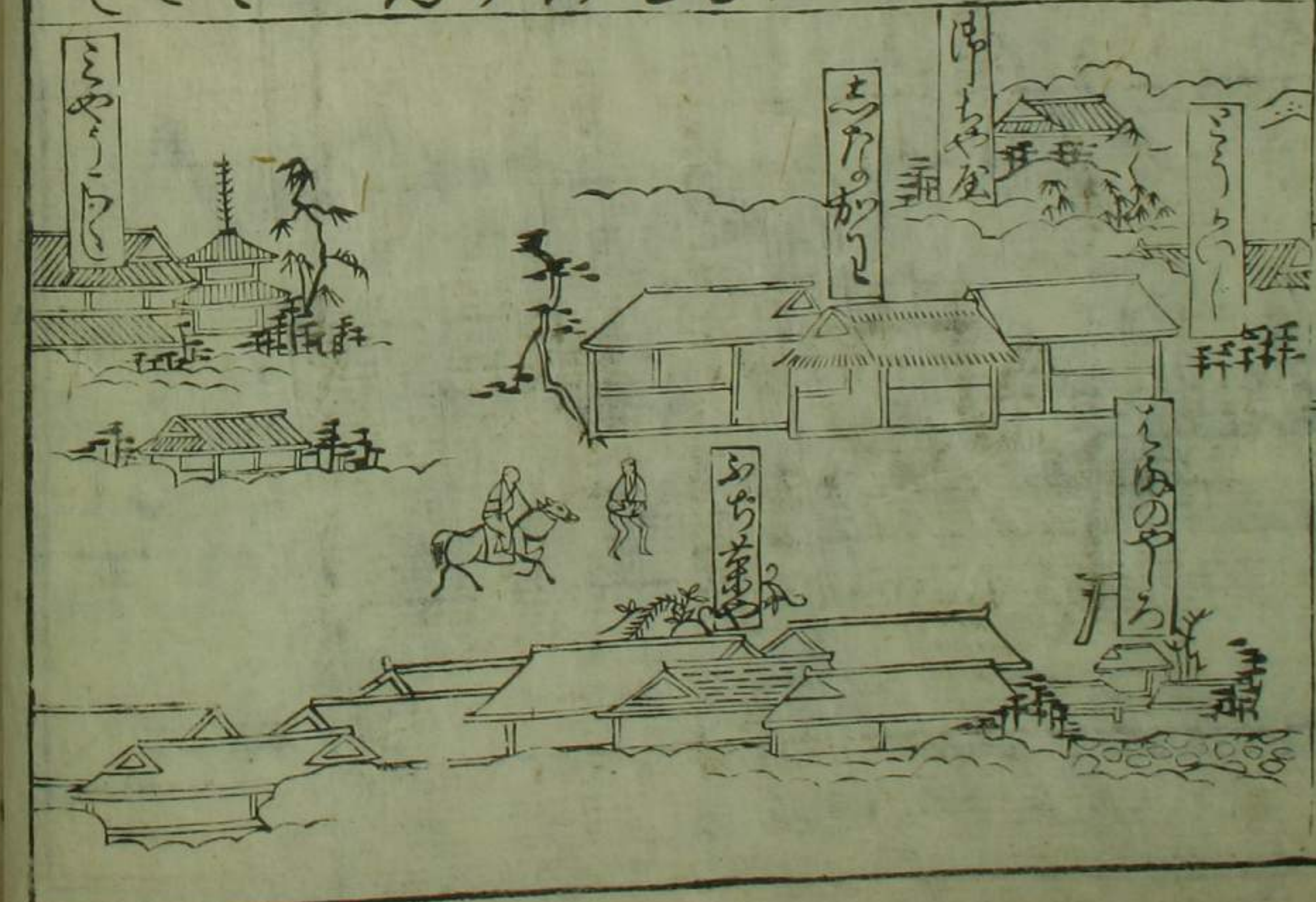
○秋田

○秋田

むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺

○秋田

むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺
むらゝ 秋田の寺のすまひの寺



金川

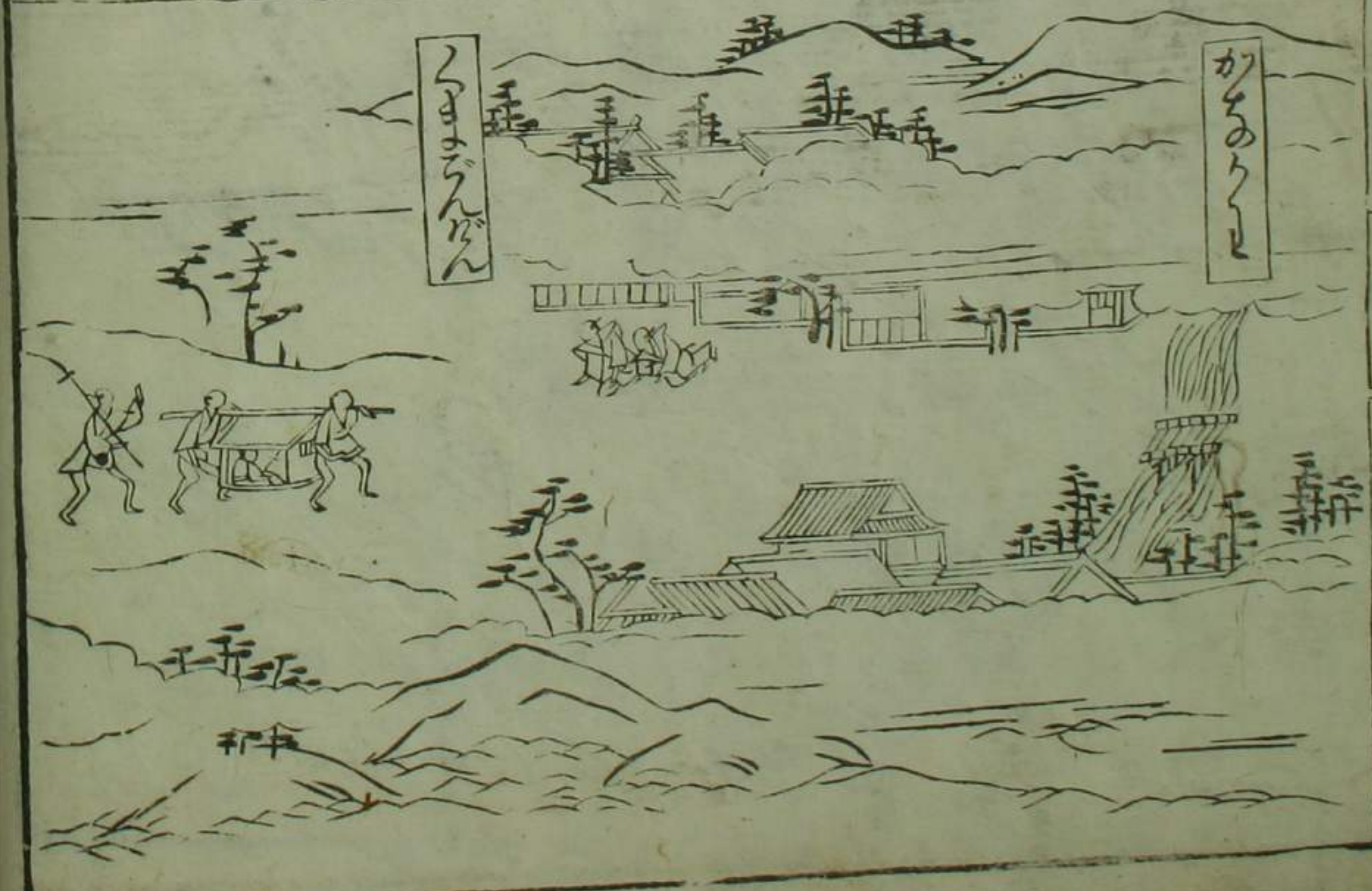
はるかにとむく風流ありて
るりあまの智恵子藤乃さ
ぬまとなすけ 秘あのか

○徳野持現

るきより海運物の所れうた
兼平の軒乃下に富太人元な
まといひ徳下岩元ゆりあり

○富太人元

まといひ一連仁とまといまお
源水まらふに因高忠常とゆ
まといひ元のかきりせんとま連
との後ありて馬考入て地獄と
めりて後向の持現よあひあ
まらうし一車東船よ詳なり



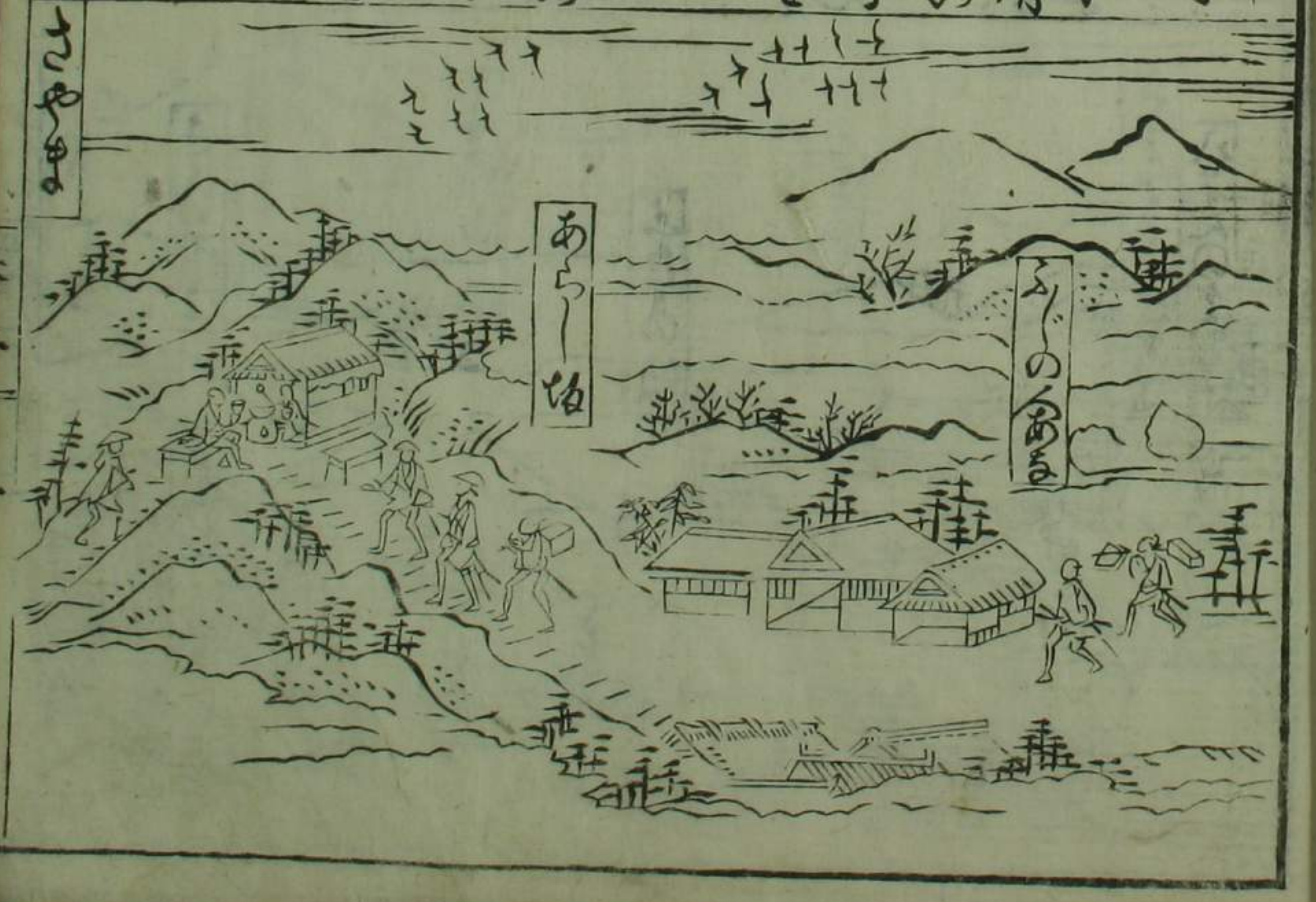
○嵐坂

は後現のあま形非くPを
が皇孫のみくくは徳と彦火
生見乃そ大歌行のそりん
は神と一國と彦好い一と地國
の後向まらふに長年中に信濃
國ありて海を海一はふじゆり山
乃神とまらふとあむ府中ま
新とまらふとあむ府中ま

○披山

はるかに浦見のかまきりま
披山とまらふとあむ府中ま
と一の年に味まらふとあむ
あまはまらふとあむ府中ま
徳倉乃かまらふとあむ府中ま

披山乃かまらふとあむ府中ま



○新町

此新町の權子との馬をつき
なるより一政の御ありては
とありたまりの所町を
かした武相模れ城目あり

○柳山

是より柳山はの浦をに松
まじりて野ありとありきの
とあり

○古無本家

思ふは月日あるをの城ありては

○信濃坂

右田所より信濃坂ありては
中にも坂ありてあり山
知能の坂ありては

○石ノ城

石ノ城は八幡のまき
乃中に時ありあり

○石ノ坂

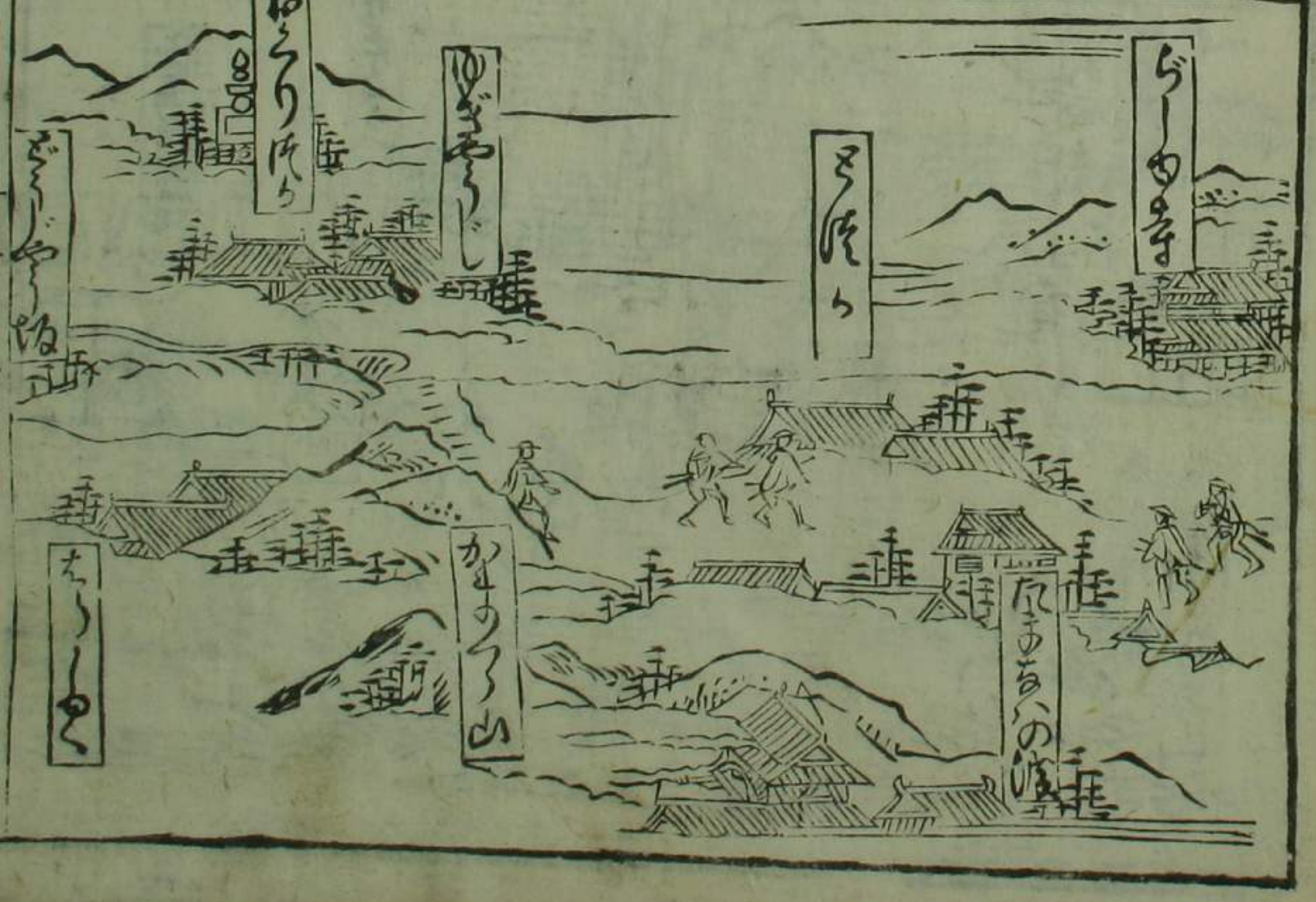
石ノ坂は馬のまき
たの山ありては

○鶴倉山

鶴倉山は鶴倉のまき
乃中に時ありあり

○権行寺

権行寺は権行のまき
神勅ありては



○あかひ 飯は
 寺小水家判妻の海ありを敷
 も後山乃海とむらうと所なる

○あかひ 是より凡のかつ乃海

○あかひ 沼

○あかひ 沼
 昔小宗の時以八指武天會二十代
 平時方の思ひ毎天より七月迄
 子孫をまつに七代天正執権より
 と其の昔一或ん斗の大蛇なる
 孫ありそれより鱗形の蛇と建保
 正月より神代あり

○あかひ 此處はそ沼流上流なる所なるの流に
 なる存のわしい白旗といふ山を

○あかひ 大山

○あかひ 大山
 寺領三百石
 或なりいふ言也後花園院永享

○あかひ 馬入

○あかひ 馬入
 年々建立ありて一馬別之を
 八大坊といふ
 海より北越河上流の時八橋を
 掛しと名なり是より南乃かの
 流つぎ成派の瀬川といふ

○あかひ 牛浦

○あかひ 牛浦
 流て報も舟浦のわいあふを別たせ
 町といふ事なるも乃山はふたの
 らえて白旗といふ山をいふ
 派別同無事又之の浦をいふ
 後念にうををいふ浦にいふ浦
 ありてつりて懸れせりいかに
 歌をいふをいふをいふいふ
 埋りては地場をいふいふ
 乃風の残りて物也



○平塚

宿をり道に持現のませほり

○鶴岡寺 寺領百石

け寺の天公の宮ありきより山水

乃傍き流き川

○石川の事也

石川の事也

石川の事也

石川の事也

石川の事也

○石川の事也

石川の事也

石川の事也

石川の事也

石川の事也

石川の事也

○山下田 ○宿川系

○大後

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

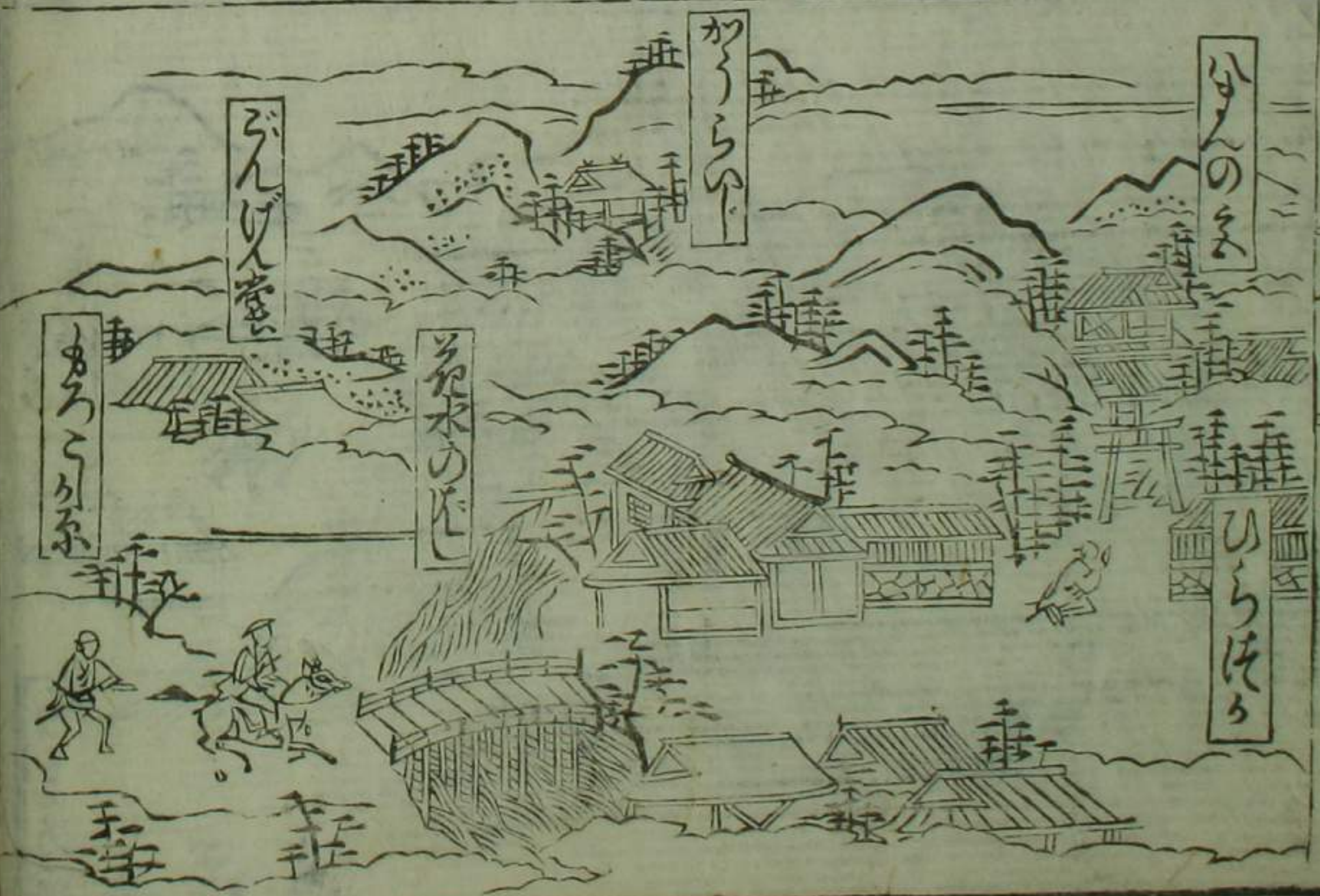
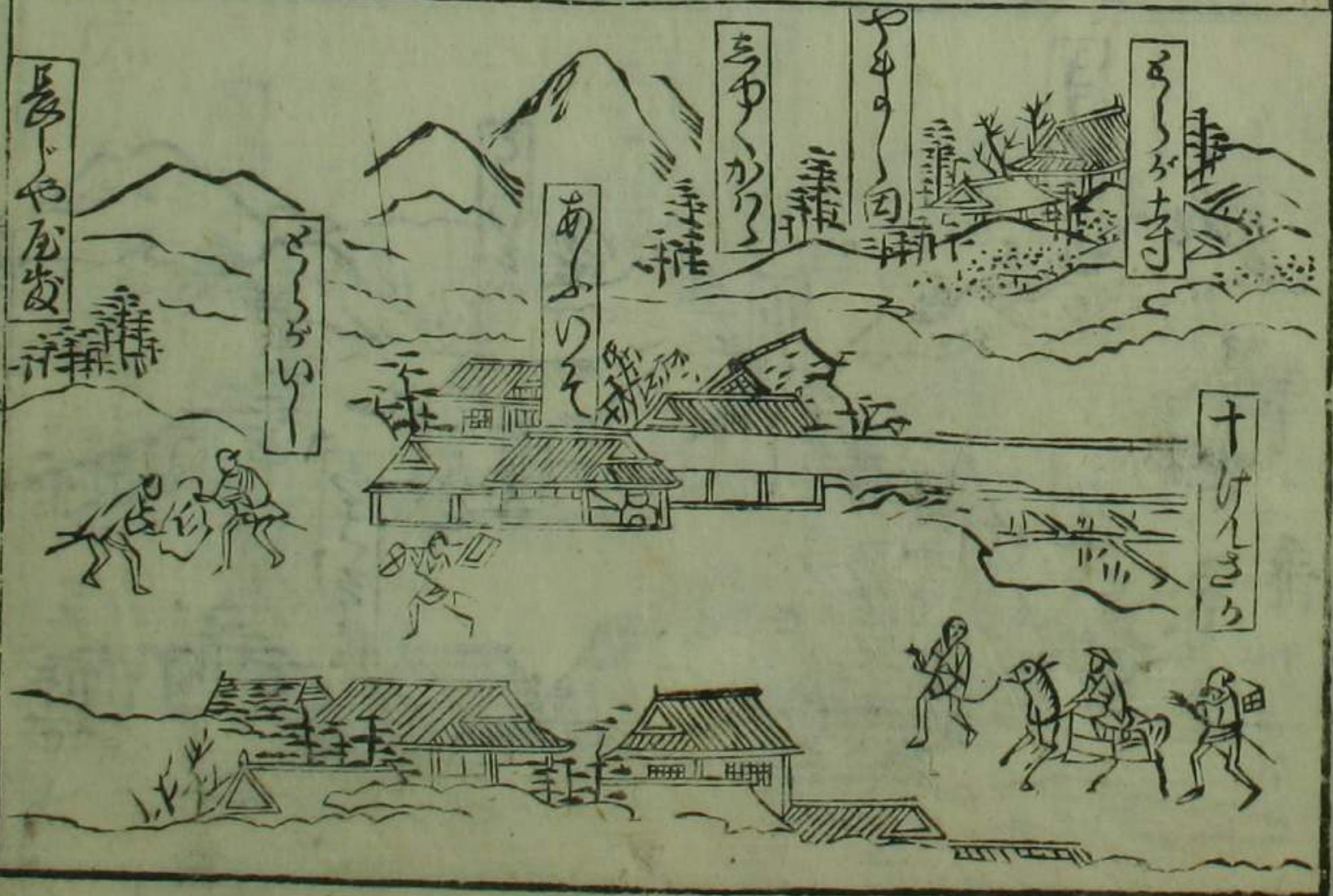
長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿

長石原ききとてむくまを宿



小碓

此所へつづまひ山川極むよりして
て切通し石塔の立居るを
むし切通しを極端に通す
け形をあらわす切通しを
かき地をうけまつるあり

相模

その相模の國も廣くは里町
こゝあつたまを右にわたり
六社のまをわたりてきより右の山
中にかうまの山あり又なる
高平に年物あり並に松の
まゝのたらのしきと見ゆる
端々小栗判友乃鬼塚を
ぞめゆひし跡や又高平の山と
まはる

梅沢

此里松乃りけりたのかつた
とんねる一葉をあり筋と
つて馬場あり所の入口

東大明神

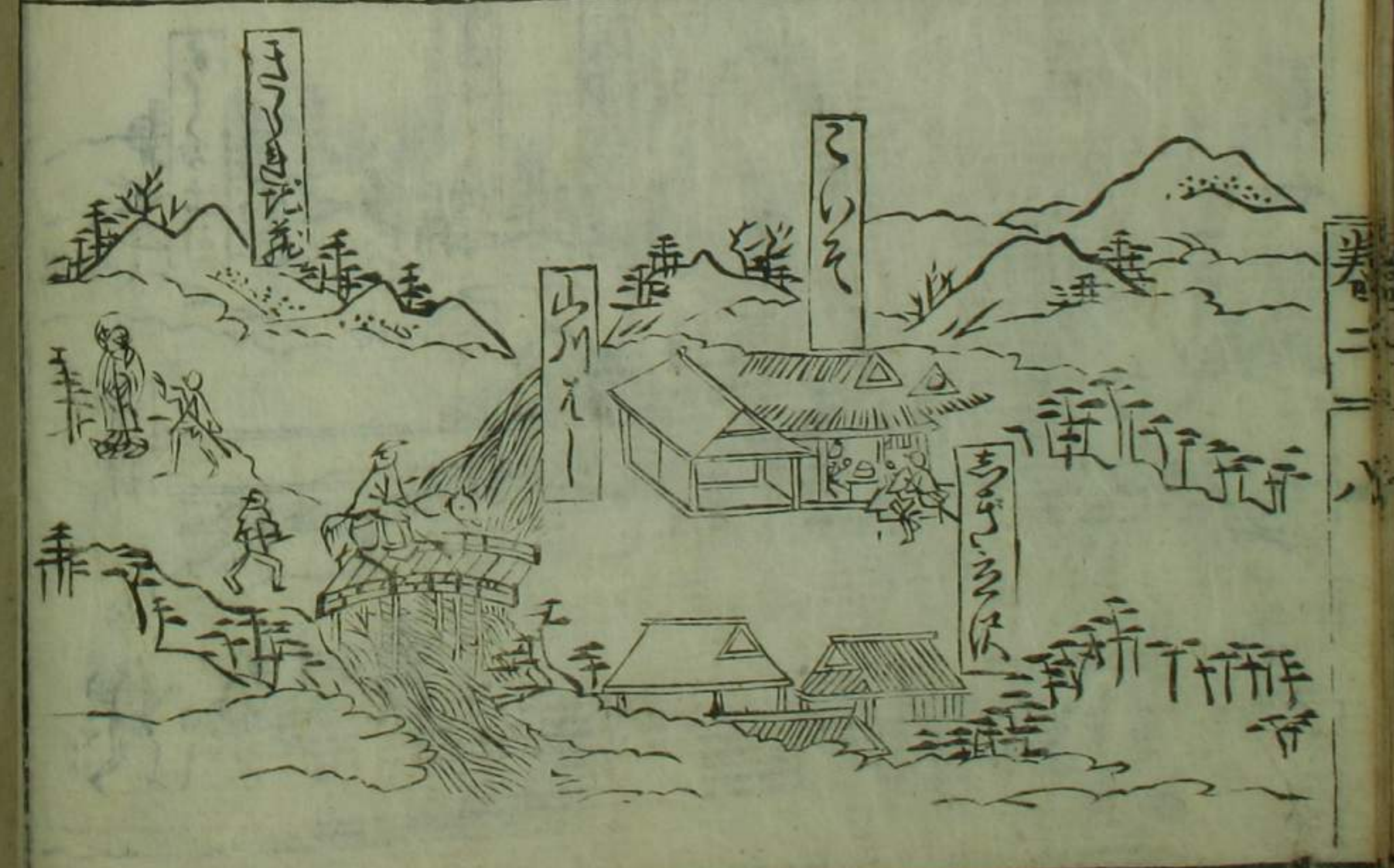
こゝより西をわたりて
下通し寺あり

丸揚寺

是より海を右のこゝより
里くええつゞき一葉を
依成時系がゆるりて今に
名をよみしゆかりのゆかり

曾根

○山野内 ○中村
尾筋の磯洲を乃りて
乃りて浦はうらつた
行里とす



○早川

石の山の如くして海に落ちかき
ありてはさきさきして種なく一々の
里に成るる也

○小田原

大久保加藤を敵城下
はるの石乃りては小田原の時れ我備
孫まじり町の岸に物邊橋と城て
名物の外島屋甲かき標木の足跡
多々想抗まき名跡さるくの物さるる
町まじりまじり見の城下地産堂あり
やま松をとりけりて標山あり

○石垣山

是れ石垣山と云ふは石垣山と云ふ
と云れぬひしと云

○湯本

あまきと分の石きバ山川を流してあり
かこの里と湯本とて就病人の入る也
いさよまのくく連歌所を流乃湯通
若れ陸をまきの下あり孫まじり地産
堂ありすと云は乃茶屋大匠と云

○三子山

此の山を名とせりて煙茶屋あり
さきさき板橋あり板橋あり板橋あり
箱橋あり白木板橋あり箱橋

○指現堂

私領或百石
は本橋あり孝謙天皇自天平實字堂
中ノ満月上人開基也寶物ありあり
友切丸或五寸若の原産所也是原の

一目五録



辰才の事初よりおろしに沙敷

○千尋大橋

是八幡宮後河内國乃隈目なり

此水目懸母と経高事なり

○茨波川

むく杉船富去れは物の時ひ

里れ長が娘は名好高とて時務

とて之思相あたるうらふは海原

みおろの世にかけおれたるは義親

なることし傳へり

○車返里

是より植のり一里里とて

新宮を越て全野とりのあま

持の時乃か海とてあまのうらみ

りて野の池となり春を淵と

山王宮

此橋れうらふと杉船かりをの

大谷今にの初よりは遠きや

是より深原の橋は七里と

あうきあなりおあまの事

とて

一取橋

古代はし和波と深あま板な

けりてて千名と今の大橋と

あまの事

○酒津

此酒津の事かたをえりて

あまの事あまの事あまの事

人乃りきと勝せりあまの事

あまの事あまの事あまの事

人乃りきと勝せりあまの事

一目三半



中をよとるそは松乃月神
まをよとるそは松乃月神

○早稲山

坊のちをよとるそは松乃月神
坊のちをよとるそは松乃月神

○大徳里

大徳里
大徳里

○富土山

富土山
富土山



てい山おとあつは蓬菜山乃
てい山おとあつは蓬菜山乃

○早稲山

早稲山
早稲山

○兄弟交

○鶴飼川

鶴飼川
鶴飼川



すきとて山川が改りては... 岩よりのあしとて... 舟なり... 舟なり... 舟なり... 舟なり...

○富士川

流下し思ひ物... 富士川の... 流下し思ひ物... 富士川の... 流下し思ひ物... 富士川の...

○吹上渡

ふいふ松とて... 半若丸あづま... 吹上渡... 吹上渡... 吹上渡... 吹上渡...

○神原

右乃... 西... 海... 里... 神原... 神原... 神原... 神原...

○由井

所... 由井... 由井... 由井... 由井... 由井... 由井... 由井...

○田子浦

八月... 田子浦... 田子浦... 田子浦... 田子浦... 田子浦... 田子浦... 田子浦...

○藤原山

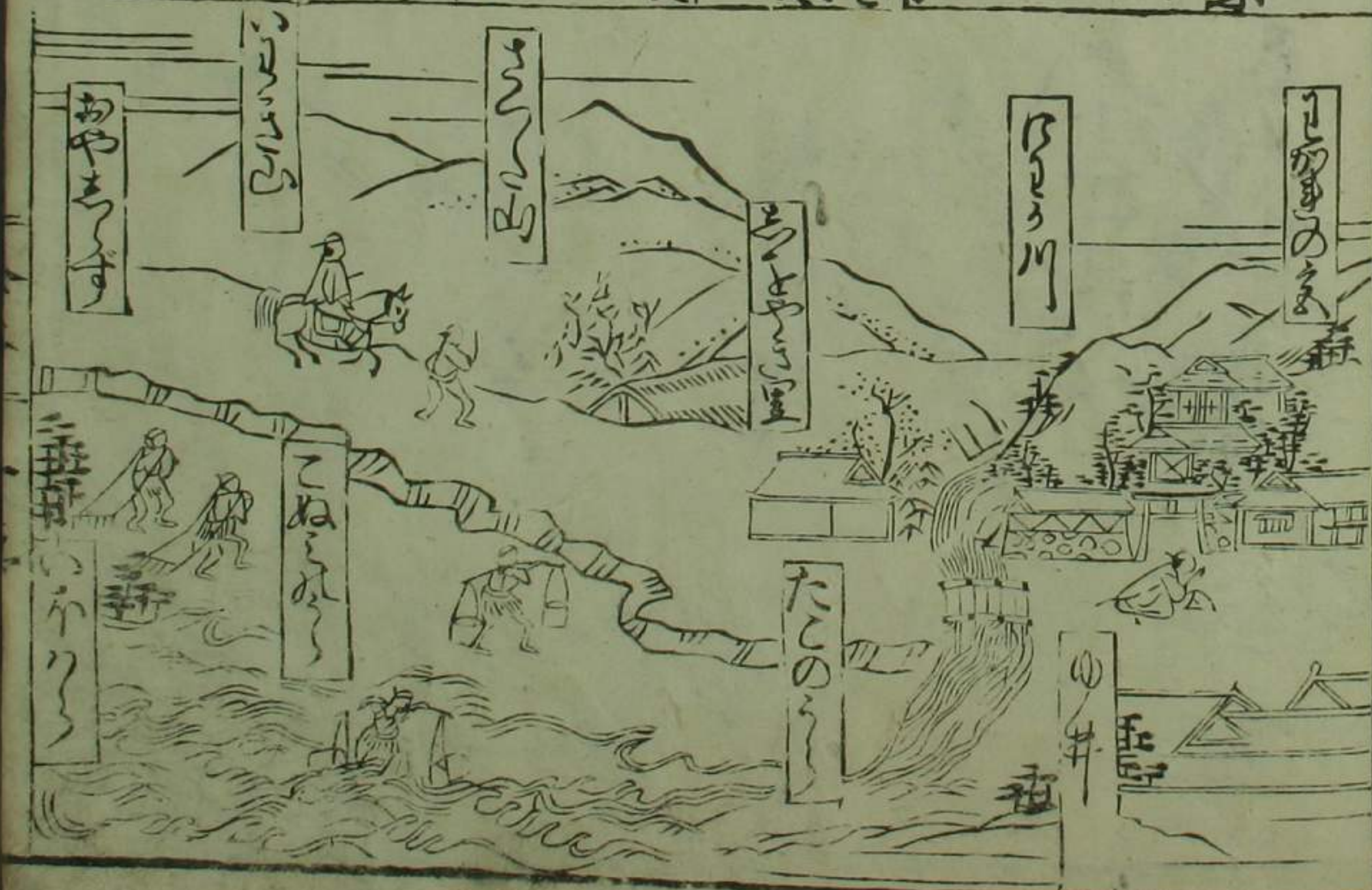
延應二年七月... 藤原山... 藤原山... 藤原山... 藤原山... 藤原山... 藤原山... 藤原山...

○般城山

約... 般城山... 般城山... 般城山... 般城山... 般城山... 般城山... 般城山...

○序系

序系... 序系... 序系... 序系... 序系... 序系... 序系... 序系...



○法見寺

見し人の面影もめは法見波初と聞かむは通
 法見深淵にありて舟の底のこころをみ
 古代は法見寺ありて舟の底に植まふ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 法見深淵にありて舟の底のこころをみ
 乃臨陽と之を

○奥津

けりし名乃丸かやぐ屋敷と名
 らべめらんか津ありと

○法見寺

法見寺ありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ



○津東川

津東川ありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ

○三保松原

三保松原ありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ

○三保松原

三保松原ありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ
 舟の底にありて舟の底のこころをみ



○社原浦

社原浦の浦はつる貝ありて多し其地は
固く名取もいふと云ふ

○江原

江原無きりしゆりゆりま
子孫後若松との傳り申の松あり
石の野中に焼く池とて人のあはる
まよふとて池とてあそぶとての
かたはる入る

○久松山

久松山は古くは天白山と云ふ
行基山又云ふ久松山の傳を
ゆりて久松山と稱す
久松山は古くは天白山の傳を
ゆりて久松山と稱す
久松山は古くは天白山の傳を
ゆりて久松山と稱す

○折崎

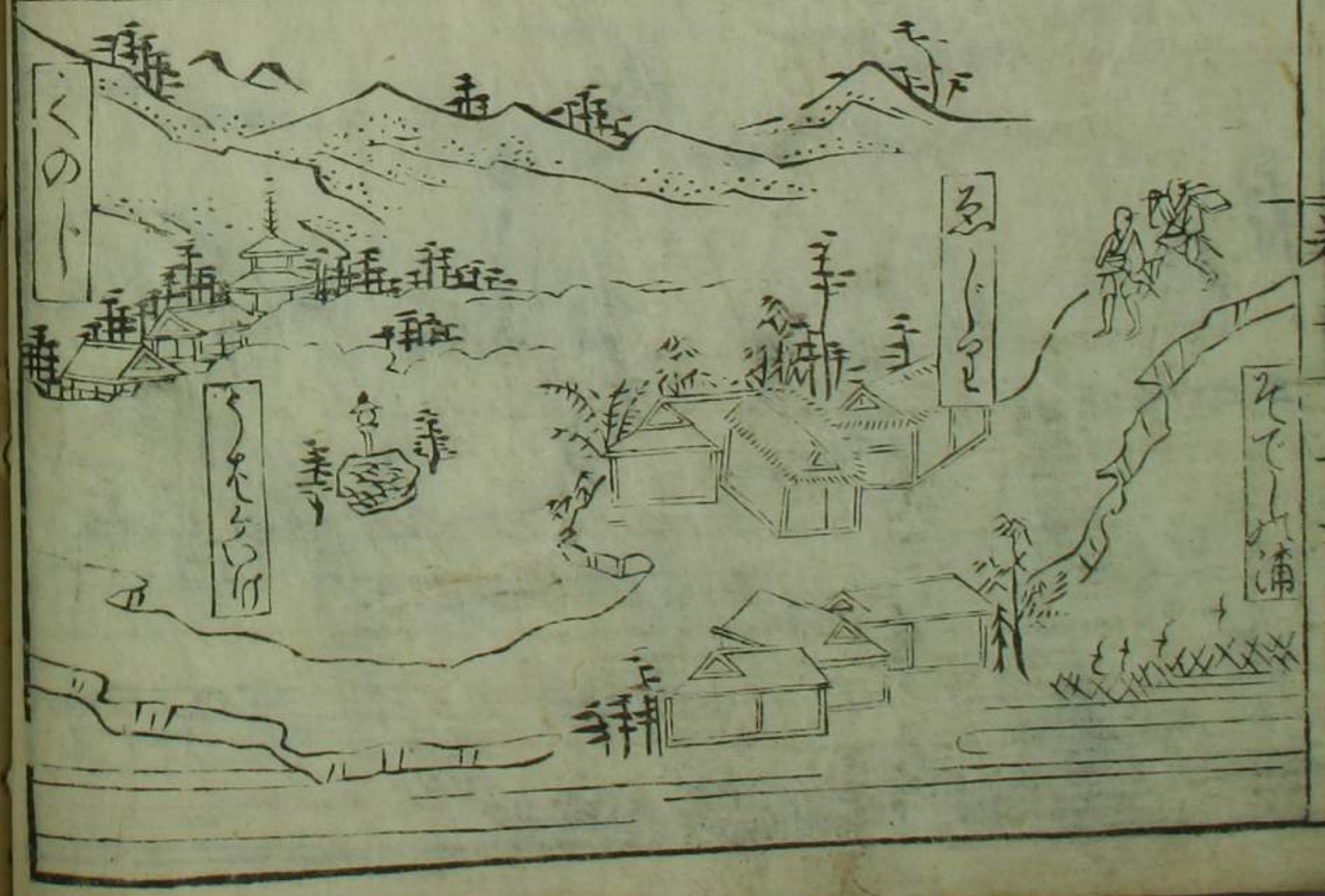
折崎は古くは折崎の親の傳を
ゆりて折崎と稱す
折崎は古くは折崎の親の傳を
ゆりて折崎と稱す
折崎は古くは折崎の親の傳を
ゆりて折崎と稱す

○府中

府中乃石のかにし清城を
てあはれし社ありしゆり
てあはれし社ありしゆり

○清原宮

清原宮は古くは清原の傳を
ゆりて清原宮と稱す
清原宮は古くは清原の傳を
ゆりて清原宮と稱す



おがりの山乃松乃志代成と云
すくは山乃松乃志代成と云

○志代成

清徳の松乃志代成は方と云は松の下
たのめは松乃志代成と云は松の下
つらつら山乃松乃志代成と云

○志代成

今松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下

○志代成

むし 室徳の松乃志代成は方と云は松の下
ありは松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
里の松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下

○志代成

○小巻山
車敷の松乃志代成は方と云は松の下

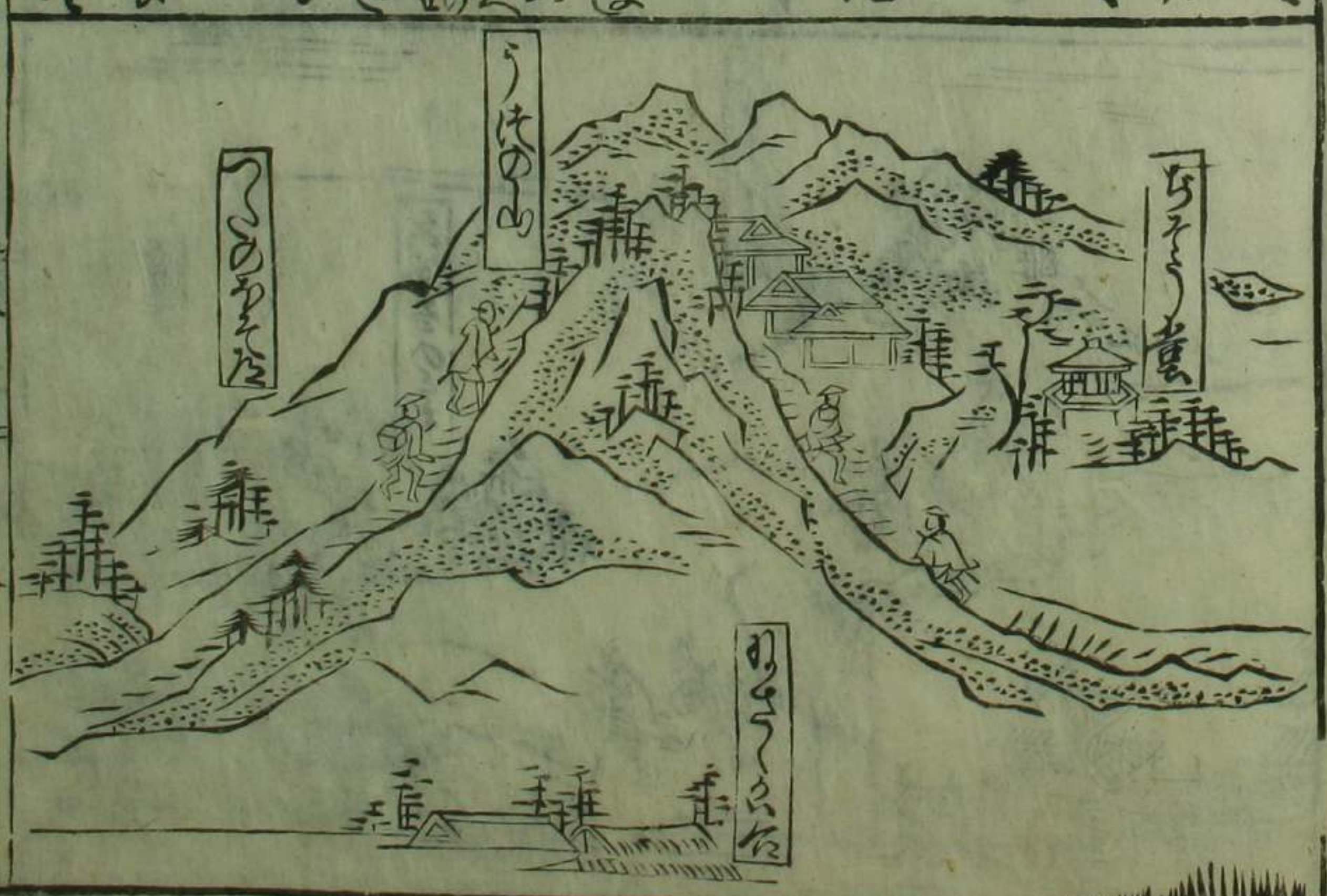
い山乃松乃志代成は方と云は松の下
まの松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
まつまつ松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
と十國の松乃志代成は方と云は松の下

○釘山

い山乃松乃志代成は方と云は松の下
まつまつ松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下

○釘山

松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下
松乃志代成の松乃志代成は方と云は松の下



息つぎの清水

○思初

けを乃木のこにねんや
おぬりて社をささるる事
思初六ゆきと夜ひかきしと
さそれより石れ野中にな
丸い石ころをれめづりし
おの清水

○八橋

かきき所白子所を越てむづ
乃づらにえんが

○田中

是より五木の松をよすま

○松枝

けのい海をちりー実のま

ら〜もや町かたる松の川
と〜と〜と〜と〜と〜と

○鳥帽子山

そゆ〜山の歌をよぼせは
是より山松のちり〜と
え〜と〜と〜と〜と〜と
む〜松のゆら〜と〜と〜と
お〜と〜と〜と〜と〜と
て〜と〜と〜と〜と〜と

○津

け〜と〜と〜と〜と〜と
て〜と〜と〜と〜と〜と
き〜と〜と〜と〜と〜と
か〜と〜と〜と〜と〜と
と〜と〜と〜と〜と〜と



○ 諺田

け辰の中より谷道あら〜川系
茶黄乃葉志げまり

○ 大井川

そ〜川日本身の流れ山の
流れてり〜川も〜川も
濁りて浪あ〜川も〜川も
やま〜川も〜川も
〜川も〜川も
〜川も〜川も
〜川も〜川も
〜川も〜川も

思ひぬる朝〜川も〜川も



